牛の腹腔内腫瘤

（全食協病理部会第45回研修会・演題No1748発表者：合川　敏彦）

牛（ホルスタイン種）、雌、3歳

生体所見　流涎、左右乳房後部腫大、軽度削痩、熱射病

内臓所見　右腎包膜に癒着する30×15×13cmの腫瘤を認めた。腫瘤の割面は、乳白色充実性で、結合織により不規則分房状に区画され、内部に出血、壊死巣が散見された。第2胃及び第4胃の漿膜面には直径1～3cmの腫瘤が散在していた。第4胃壁には直径5～25㎜の乳白色結節が密発し、粘膜面は凹凸を呈していた。その他実質臓器では、肝臓の横隔面に直径4㎜の白色結節を1ヶ所、心臓の右心室心外膜面にやや隆起する2×1.5×1cmの白色結節を1ヶ所認めた。また、右浅頚リンパ節、内腸骨リンパ節、乳房上リンパ節、縦隔リンパ節及び腎リンパ節が著しく腫大していた。各リンパ節の割面は、乳白色充実性で、結合組織により不規則分房状に区画され、内部に出血、壊死巣を認めた。

組織所見　腫瘍組織は、少量の線維により不規則な小胞巣に区画され、胞巣内に数個から十数個の腫瘍細胞を容れていた。腫瘍細胞は、類円形から多角形の比較的大型で淡明な核を有し、細胞質に乏しい類円形から短紡錘形の細胞で、異型性が強く、核分裂像を高頻度に認めた。また、腫瘍組織内には貪食像が散見された。

診断名　リンパ肉腫

まとめ　右腎包膜に癒着する腫瘤もリンパ節である可能性が高いと思われた。肉眼所見および組織所見よりリンパ肉腫と診断し、全部廃棄処分とした。